令和５年度

事　業　報　告

社会福祉法人　横浜市社会事業協会

【施設概要】

No	名称	種別	所在地
1	法人本部・アテイン	法人本部 就労継続支援A型	泉区中田東 3-15-2 中田町センタービル 202・201
2	グループホームアンダール	共同生活援助	保土ヶ谷区常盤台 64-18
3	よこはまリバーサイド泉 ※よこはまリバーサイド泉わかば	障害者支援施設 ※放課後等デイ	泉区下飯田町 355
4	よこはまリバーサイド泉相談支援	相談支援	泉区下飯田町 355
5	よこはまリバーサイド泉Ⅱ光梨	生活介護	泉区下飯田町 1374-2
6	よこはまリバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり	生活介護	泉区下飯田町 811-6
7	居宅サポート・リバーサイド泉	居宅介護	泉区和泉中央北 6-3-13
8	グループホームゆい	共同生活援助	泉区泉中央北 6-26-8
9	グループホームサンライズ	共同生活援助	泉区和泉町 1197-1
10	横浜市中央浩生館	更生施設	南区中村町 3-211
11	インカル	就労継続支援B型	中区翁町 1-3-9 タムラビル2階
12	グループホームすてら縁	共同生活援助	南区真金町 1-6-55 阪東橋ステラ
13	うるおい南	就労継続支援B型	南区睦町 1－25
14	横浜市大岡地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	南区大岡 1-14-1
15	横浜市簑沢地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	中区簑沢 13-204
16	横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	保土ヶ谷区川辺町 5-11
17	横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター	精神障害者生活支援センター	鶴見区豊岡町 28-4 ハーモニーとよおか4階
18	CaféTurtle	就労継続支援B型	神奈川区神之木町 88-1
19	横浜市多機能型拠点こまち ※なごみクリニック	横浜市多機能型拠点 ※診療所	瀬谷区二ツ橋町 489-45
20	左近山特別支援学校内放課後等デイサービスたんぽぽ	放課後等デイサービス	横浜市旭区左近山 1011

（名称の網掛けは、指定管理施設）

≪経営理念≫

夢と希望のもてる誰もが住みやすい社会との架け橋を築く

≪基本理念≫

1　人々に共感と信頼の得られる社会福祉事業を行うことにより、人々の安心した暮らしの実現を支援します。

2　地域の関係機関と連携しながら、地域における福祉の環境づくりに貢献します。

3　堅実かつ効率的な経営に務め、サービスの質の向上と安定的な提供を確保します。

法人本部・アテイン

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. 法人本部 (ア)職員一人ひとりが働きやすい職場環境の構築 ① 職員の心身のリフレッシュの機会を増やすため、昨年度導入した夏季休暇・リフレッシュ休暇の制度定着を図った。リフレッシュ休暇は、計13人が取得し、うち5人は15連休以上の長期休暇を取得した。 ② 出生時育児休業制度(産後パパ育休)の制度利用促進に向けた取り組みを行った結果、職員1人が制度を利用した。 (イ)法人本部の機能強化 本部事務局の経理部門を拡充し、事業所で分散実施している経理業務を集約するため、令和5年度は居宅サポート・リバーサイド泉、グループホームゆい、グループホームサンライズの経理事務を本部事務局に移管した。 (ウ)コンプライアンス経営の強化 ① 昨年度整備した内部通報制度が適切に機能するよう、法人研修や事務運営会議の報告機会に合わせて、職員への制度周知を進めた。 ② 法人研修を通じて、管理職、主任職員への、コンプライアンス経営の教育を行った。 (エ)職員採用・定着支援の強化 ① 職員採用では、目標の12人を上回る13人の新卒者の採用に至った。 ② 高卒採用は、1人の新卒者を採用することができた。 ③ 社会福祉士等養成校からの実習生受け入れを積極的に行った結果、受け入れた実習生のうち2人が採用に結びついた。 ④ 新卒の新採用職員に対しては、定期的な面接及び2か月に一度の集合研修を実施、きめ細やかな定着支援を行った。 (オ)健康経営の推進 ① 昨年度に引き続き、よこはまウォーキングポイントに事業所単位で参加し、歩くことによる健康づくりを勧奨した。 ② EAP(従業員支援プログラム)委託業者の見直しを行い、カウンセリング相談窓口の受付時間の延長、利用可能回数を拡充した。 ※EAP(Employee Assistance Program/従業員援助プログラム) ③ 職員の健康課題の把握を行うとともに、健康課題に即した取り組みを行い、職員の健康をフォローした。その結果、令和6年度横浜市健康経営認証AAAを取得した(2年間有効)。

④　クラブ活動の支援制度の利用促進を行い、公私の充実を支援した。令和5年度は、駅伝部メンバーがFMヨコハママラソンに出場した。

（カ）法人内部での情報アクセス・情報発信の強化

①　諸手続きの方法や福利厚生制度についての FAQ の保存場所の変更を行い、事務職パートタイム職員の情報アクセスを向上させた。

②　ホームページの閲覧数を上げるための法人横断の検討チームについては、次年度にホームページのリニューアル実施を見据えて、設置を見送った。

（キ）災害への備えの強化

①　BCPに基づき、9月26日に法人全体の防災訓練を実施した。

②　神奈川DWAT(災害派遣福祉チーム)への登録研修への職員派遣はできなかったが、前年度に登録した職員1名を能登半島地震への神奈川DWATに派遣、金沢市内の1.5次避難所で被災者の支援活動を行った。

2.　IT推進室

（ア）事務方のテレワークの推進

テレワークに必要な環境を整え、計画的に実施した。

（イ）セキュリティ機器・ネットワーク機器の刷新

UTM（統合脅威管理）、VPNルーター（公衆回線網上に仮想的な専用線を構築する技術に対応する機器）、クラウドサーバー（データセンターに格納されているデータ保管・管理機器）を刷新した。

（ウ）ランサムウェア対策の推進

バックアップデータを暗号化し、遠隔地に自動的に保管する仕組みを構築した。

3.　アテイン

（ア）業務範囲の拡大による給与額の向上

業務範囲の拡大の結果、前年度比約270万円の受注増に繋がった。それに伴い、ご利用者の賃金は時給41円の昇給を行い、全体では前年度比年額約85万円の給与向上となった。また、ご利用者1名を職業指導員として雇用した。

（イ）就労継続支援に関するノウハウの可視化

マニュアルの作成、ご利用者との日々の関りの言語化に取り組み、法人内の事業所でも汎用できるように準備を進めた。取り組みの第一歩として、それらを日本精神保健福祉士協会全国大会にて実践報告として発表した。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R4年度		R5年度	
	目標値	実績	目標値	実績
アテイン(定員10人)	9.5人	8.3人	9.5人	8.9人

グループホームアンダール

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1.　事業所間（アンダール常盤台・中里台、Crane 神之木）の連携強化 (ア)ご利用者の支援方針を、アンダール職員間で協議した。 (イ)法人機関紙「シンフォニー」の編集を、アンダール職員で担当。グループホームの特集を組むため、取材を通じて各ホームの特徴を明らかにした。 2.　研修機能の強化 アンダールの 3 か所のグループホームのほか、法人内のゆい、サンライズ、すてら縁と隔月で連絡会を開催。連絡会にて事例検討を行い、職員の資質向上を図った。 3.　イベント交流の参加 (ア)自主事業の開催 Crane 神之木にて、季節を感じることと健康を意識したイベントとして、お豆腐を食べる「お豆腐会」を開催した。 (イ)地域自治会の行事参加 Crane 神之木にて、昨年度に引き続き、「大口パン祭り」への参加を予定していたが、行事自体が荒天にて中止となった。 4.　居住環境の整備 (ア)中里台で老朽化した洗濯機 1 台を交換した。 (イ)常盤台のトイレに水漏れがあり、修繕工事を実施した。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R4 年度		R5 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
アンダール常盤台(定員 6 人)	5.8 人	5.7 人	6.0 人	6.0 人
アンダール中里台(定員 7 人)	6.8 人	7.0 人	7.0 人	7.0 人
CRANE 神之木(定員 10 人)	10 人	9.8 人	10.0 人	9.5 人

よこはまリバーサイド泉

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1.　新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた、感染症対策への取り組み （ア）入所支援課では、感染リスクの低い屋外での活動を重視し、夏には花火大会を、年明けには新年会を実施した。さらに、毎月、季節に合わせた創作活動を行い、その成果物を中央廊下に展示した。これにより、ご利用者の日中活動への参加意識の向上を図った。 （イ）ご利用者からのニーズを十分に把握し、ランチ外出やいちご狩り、大船フラワーセンターなどへの外出を実施した。 （ウ）クラフト講座の再開にあたり、講師との事前調整を重ね、再開を実現した。また、ボランティア担当者との調整により、不定期ながら朗読ボランティアによるプログラムも再開することができた。 （エ）月１回の区役所販売を再開、当施設作業製品の PR に努めた。また、令和５年９月には「IZUMI TWINS OPEN DAY」、11 月には「深谷通信所跡地中央広場活用イベント」に出店。参加したご利用者・職員共に地域住民との交流を図ることができ、当施設の作業製品を知っていただく機会となった。また、今後の販路開拓に向けて泉区自立支援協議会や施設連絡会等からの販売情報も入手することができた。 （オ）地域交流を促進するために、地域で行う移動動物園や隣接する施設の防災訓練に参加した。また、当施設の 40 周年を記念して、リバーサイド祭を開催。感染症のリスクを考慮しながら、ご利用者・ご家族・職員の参加としたが、外部の方によるパフォーマンス（米山流殺陣術）を披露していただき、全体行事が初めての職員が多い中、施設全体で協力し実施することができた。また、リバーサイド祭関連事業として、3 施設（ほらいと・えき、泉Ⅲ、泉）合同作品展を泉区役所で開催。区民の方に施設を知っていただく機会を作った。参加した施設からも「良い機会となった」という感想をいただいた。 （カ）感染症備品一覧を作成し、特に使用頻度の高い消耗品については、空き部屋となった職員寮に専用の保管場所を設け、必要時に迅速に対応できる環境を整えた。 2.　職員教育の充実 （ア）職員不足の中でも研修機会を確保するため、介護分野に特化したオンライン研修を導入し、階層ごとに研修計画を策定した。全職員に実施し、テストと振り返りによるフィードバックを行った。その結果、言葉遣いなどは実際の接遇場面で活かせるとの声もあった。

（イ）「褥瘡」と「摂食嚥下」に関する研修を２つのチームで実施した。褥瘡チームでは衛生管理の一環として、洗髪・洗体・陰部洗浄の正しい手順を、摂食嚥下チームでは、トロミ水の摂取をさまざまな姿勢や介助方法の体験を行った。研修終了後にアンケートを実施し、定着度を確認した。

（ウ）男女１名ずつの研修担当者が研修計画を策定した。座学は担当者が行い、具体的な支援の指導は、それぞれに担当者が割り当てられ、業務の相談を含めてきめ細やかな指導を行った。

3.　働きやすい環境の整備

（ア）安全衛生委員会担当職員と中堅職員が連携し、指導を実施することで、業務環境の改善が実現した。男性棟では、職場環境改善担当者が組織され、自主的な取り組みが行われ、継続的な改善活動に繋がった。

（イ）職員の欠員が続き、環境改善の体制が整わなかったため、次年度の課題とした。

（ウ）地域支援課では、管理職によるヒアリングを実施し、職員の意見の吸い上げを行った。一方、入所支援課では職員の欠員により業務負荷が高まり、組織風土の醸成には至らなかった。

（エ）放課後等デイサービスわかばでは、連絡帳のシステム化を進めるために、効率化できる業務を確認し、令和５年12月から令和６年１月にかけて無料トライアルを実施した。その後、使い勝手を検証し、令和６年３月に業者を決定した。令和６年度からの運用に向けて準備を整えた。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R4年度		R5年度	
	目標値	実績	目標値	実績
入所(定員60人)	58人	57.6人	58人	57.6人
生活介護(定員20人)	19人	16.7人	19人	17.3人
短期入所(定員6人)	4.5人	2.3人	4.0人	1.6人
放課後等デイサービス(定員5人)	4.5人	3.8人	4.5人	4.1人

よこはまリバーサイド泉相談支援事業所

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1.　ご利用者に提供する相談支援事業の質の向上 （ア）地域福祉推進の要となる自立支援協議会の毎月の運営に参画し、又、主任相談支援専門員主催による相談支援事業所相談員の連携、スキルアップのための勉強会を８月、10月、１月に開催し実務に活かせるような取り組みを行った。 （イ）強度行動障害支援者育成研修を受講し加算の取得に繋がった。 2.　職員の定着と事業所の安定的な経営 （ア）個々の職員への日頃の聞取りや定例会議を実施することにより、事業所全体で全ご利用者を支援する体制を作り、個々に抱え込み悩むことのない職場環境を整えた。 （イ）区役所、自立支援協議会との連携により収入確保につながる行政施策の動向把握に努めた。相談員４名を維持し、加算対象となる研修を受講、漏れなく申請を行い、又必要に応じ追加モニタリングを入れることにより、基本収入に加え更なる収入確保に努めた。

2.稼働実績

事業名		稼働数(1日平均)			
		R4年度		R5年度	
		目標値	稼働数	目標値	稼働数
計画相談	契約者数	330人	300人	330人	307人
	毎月のモニタリング件数	120件	101件	120件	108件

※計画相談契約者数は令和6年3月31日現在の数字です。

よこはまリバーサイド泉Ⅱ光梨

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1.　活動の充実を図り、利用率の向上と新規利用者の獲得に取り組む。 （ア）コロナ禍で自粛していた外出やイベントの実施、今まで行ったことのない内容のものに挑戦するなど活動の充実化に努めた。ご利用者からは「楽しい」という声が挙がったが、職員としては「ご利用者の声をもっと吸い上げたかった」などの課題が残った。 （イ）退所者が 3 名あったにもかかわらず、令和 5 年度新規利用者の安定した利用により、令和 4 年度に比べ平均利用が増加となった。 2.　ノーリフトケアの取り組みを推進し、ご利用者・職員にとっても安心安全な介護が提供出来る環境を整えていく。 （ア）ご利用者・職員が安心してリフターを使用できるように、導入するにあたり研修を行った。また、リフター操作に慣れるまでは職員 2 名体制で介助を行った。 （イ）令和 5 年度よりリフターを導入したことで、それ以前に比べ職員の身体負担や痛みが軽減されたという調査結果となった。 3.　人材育成と職員の支援力・チーム力向上を目指す。 （ア）新人職員の育成に向けて、「新人職員に求めるもの」を職員間で共有したことで、新人職員は着実に業務を習得できた。 （イ）職員間で情報交換を密に行い、「働きやすい職場」を目指して課題を一つずつクリアしていき、職場環境を整えた。 （ウ）各職員がお互いを思いやり尊重する気持ちを持つことと事業所の目指す方向を会議や日々の朝礼で確認したことでチーム力がより強化された。 4.　よこはまリバーサイド泉Ⅲとの協力体制は取りつつ、事業所が単体で運営を行っていける基盤作りに取り組んでいく。 （ア）泉Ⅲと協力体制をとったことにより男性職員配置が通常より少ない場合にもサービスを中止することなく安定して提供することができた。 （イ）事務担当が泉Ⅲと兼務することで業務の効率化と経費削減に繋がった。 （ウ）事業収支を職員間で共有することで各々ができる形で事業運営に参加する姿勢が見られた。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R4 年度		R5 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
生活介護(定員 20 人)	19.4 人	16.9 人	18.5 人	17.9 人

よこはまリバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1.　ご利用者に選んでもらえる事業所作りと利用率の向上 （ア）10周年記念イベントを開催してご利用者、ご利用者家族と地域の方を招待して、これまでの活動を振り返る機会と日頃の運営へのご理解ご協力に感謝をすることができた。 （イ）事業所広報誌やブログを活用して事業所の様子や取り組みを知っていただく機会を設けることにより、ご利用者の獲得と利用日数の増に繋げることができた。 （ウ）ホームページに活動予定や献立を掲載して、事業所の活動状況の周知を図った。 （エ）年間計画で日帰り外出、ひまわりでは長期休暇期間にて日帰り外出を再開して、社会資源を活用した体験の機会を設けることができた。 2.　人材育成と職員の支援力向上 （ア）指導職、現場職員の連携と日頃からのコミュニケーションの大事さを第一にして、必要に応じた話し合いの場を設けて支援の向上に繋げた。 （イ）新人職員の育成方法を見直して取り組みを行ったことでスムーズな育成に繋がり、定期的な面談を行い、新人職員の不安や今後の課題を上司に相談出来る環境を設けることで自分達のやるべきことを見出すことができた。 （ウ）グループごとに目的別のミーティングとすることができ、職員一人ひとりが気持ちを切り替えて参加することでよりよい支援に繋がる話し合いが出来る場となった。 （エ）事業所代表で外部研修に参加をしてその後事業所内で伝達研修として行った。現場の状況に合わせた日程設定をすることで全職員が参加できた。 3.　よこはまリバーサイド泉Ⅱとの協力体制と事業所の基盤づくり （ア）泉Ⅱと医療職の連携とフォロー体制を整えて、医療的ケアのあるご利用者の安定したサービス提供と受け入れに繋がった。 （イ）事務担当を泉Ⅱと兼務にして業務の効率化と人件費削減に繋がった。 （ウ）泉Ⅲに専任所長を配置して単体での体制と環境作りを行った。

2.稼働実績

事業名	稼働数（1日平均）			
	R4年度		R5年度	
	目標値	実績	目標値	実績
生活介護（定員20人）	17.0人	16.6人	17.0人	16.7人
児童（定員5人）	4.8人	4.3人	4.5人	3.9人

居宅サポート・リバーサイド泉

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. 安心安全な介護の提供 （ア）全職員対象の動画視聴型の研修を実施した。実際の介護場面ではご利用者の ADL 等に合わせて介助方法の再検討を行い、グループホームゆいと共通した支援を実施した。 （イ）動画視聴型研修の実施、就業前の身だしなみ確認項目の掲示を行い、接遇マナーの向上に努めた。 2. 関係機関との連携 定期的なカンファレンスへの参加を通じてご利用者の再アセスメントを実施、適切なサービスの提案と提供を行った。さらに当事業所と契約の無かったご利用者への派遣について 4 人の新規契約につなげた。 3. 働きやすい職場環境の整備 （ア）定期面談等を設定することは出来なかったが、事業所および派遣先で積極的に意見交換を実施した。新規採用の非常勤職員に対してはきめ細かな研修と定着支援を行った。 （イ）ご利用者のニーズや介助方法の見直しを図ることはできたが、その結果をもとにした労働条件の見直しには至らなかった。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R4 年度		R5 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
(障害)居宅介護	51 時間	51.3 時間	51 時間	45.6 時間
(障害)移動支援・同行援護	21 時間	20 時間	20 時間	20.4 時間
(介護保険) 訪問介護	4.3 時間	4.4 時間	4.5 時間	4.5 時間

グループホームゆい

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. 安定した生活基盤としてのグループホームを目指す （ア）ご利用者の生活の拠点としての体制整備 ご利用者の状況やニーズに変化が生じた場合は、関係機関およびご家族とカンファレンスを実施することで支援方針の検討を行った。ご利用者の高齢化が進む中でグループホームに住み続けたいというニーズに沿った支援を提供した。 （イ）非常勤職員の育成と定着 ① 各ホームの業務マニュアルの更新、介助方法の研修を実施することでご利用者の変化に対応することができた。非常勤職員からの要望や意見に対して、現地でともに確認することにより課題を解決するだけでなくコミュニケーションの機会を増やした。 ② 配置するホームを固定することなく横断的に支援することが可能な非常勤職員の育成に努めた。結果 5 人の職員が複数のホームの支援方法を習得することで職員配置を安定させた。 2. 居住環境の整備 （ア）リビングや脱衣所のエアコンの入れ替えを実施した。天井走行リフトの入れ替えは見送ったが、保守点検契約を見直すことで定期的なメンテナンスを導入した。 （イ）共有スペースにおけるご利用者の私物を整理、ご利用者も支援者も使いやすい環境を整備した。また、リビングや廊下の照明の LED 化を進めた。 3. グループホームゆいⅡの契約更新 前年度の契約更新時の対応をもとに計画的に進めたことで、工事日程を延長することなく完了させた。また、ご利用者と一緒に考えることで個々の希望を工事内容に反映させた。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R4 年度		R5 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
共同生活援助ゆい(定員 32 人)	30.2 人	28.0 人	31.0 人	29.2 人

グループホームサンライズ

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1.　快適な居住環境の整備 （ア）食器棚、冷蔵庫、洗濯機等の毎日使用する家具・家電の入れ替えを行った。商品選定時に操作性や生活動線を考慮した。 （イ）居住環境のメンテナンスのため、グループホーム外周の清掃および除草作業を実施し防草シートを施工、ホーム内の排水管清掃を実施した。 2.　健康状態の把握とフォロー体制の強化 （ア）通院同行、関係機関とのカンファレンスを通じてご利用者一人ひとりに合わせた支援を再検討するとともに連携を強化した。ホームでの生活を希望された終末期のご利用者に対して可能な限りサンライズで過ごしていただけるよう訪問診療等導入し、支援を継続した。 （イ）ご利用者の通所先を訪問し、情報共有を行った。うち 2 人はご利用者の状況や年齢に合わせて通所先の移行を支援した。 3.　多様な障害特性に応じた支援の提供 （ア）定期的にご利用者と面談を実施、所内でカンファレンスを実施することで支援方針を統一した。結果ご利用者の新たな希望や課題を見出すことへ繋がった。 （イ）強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）を新たに 2 人職員が受講した。加算算定には至らなかったが、ご利用者の特性に応じた支援方法の検討を進めることができた。

2.稼働実績

事業名	稼働数（1 日平均）			
	R4 年度		R5 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
共同生活援助サンライズ（定員 16 人）	15.5 人	15.2 人	15.5 人	15.5 人

横浜市中央浩生館

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. ご利用者ができるだけ速やかに地域移行や自立ができるよう、実施機関や地域の関係機関との情報共有や連携を密にし、利用して良かったと感じられる支援を行う。 (ア) 更生施設全体の傾向から、今後入所者数の大幅な増加は困難と判断し、事務費単価の改善を目的に令和 5 年 4 月 1 日から利用定員を 68 人から 60 人に変更する手続きを行った。前年度の各関係機関への入所事業利用の呼びかけ等により、年度当初より徐々に入所依頼が増え、8 月には 50 名まで回復するに至った。また、地域生活移管に向け引き続き積極的に就労や通所に繋げるとともに、借り上げアパートを活用した自立生活体験事業等を通じて入所目的を達成し退所に至るご利用者は例年並みを維持した。 (イ) 通所・訪問事業については、計 26 名と目標は若干下回る結果となったが、近隣区からの問い合わせが増えており、利用終了者と同程度の新規利用者獲得により一定の人数の維持につながっている。 2. 実施機関や関係機関に対し、新たな施設利用の方法について、提案・周知し、相談にもきめ細かく対応することで、利用促進につなげてゆく。 他施設移管を視野に入れた短期的な利用の受け入れや、出張面接への対応など多様なニーズに対応すべく努めた。少人数部屋の活用等により配慮が必要なご利用者の受け入れを一定数行った。 3. 快適で安全な施設環境を維持するとともに、衣食住の充実を通じてご利用者の満足度を高める。 建物の老朽化に伴う修繕については都度横浜市と協議しながら早急に対応した。食事提供については退職者が出た影響で一時弁当や外食の頻度が増えたが、非常勤職員の雇用もあり、年明け以降は従来と同程度の水準に戻すことができている。 4. 地域清掃活動や地域住民と共に行う行事への参加・主催を行う。 地域清掃の他、コロナの影響で中断していた地域行事を再開した。町内会の高齢化が進んでおり、施設の食事会への招待や町内会行事（もちつきなど）への参加などで交流を図った。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R4年度		R5年度	
	目標値	実績	目標値	実績
入所(定員60人)横浜市中央浩生館	62人	36.8人	45人	47.5人
通所(定員26人)横浜市中央浩生館	29人	24.1人	29人	23.8人
訪問(定員4人)横浜市中央浩生館	5人	4.1人	1人	2.1人

インカル

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. ご利用者に対して一人ひとりの尊厳を守り、個人の自主性とプライバシーを尊重して社会的自立を目指しサービスを提供する。 (ア) ご利用者の就労支援の取り組みとして、特別支援学校との繋がりが希薄となり、関係性の構築が課題として挙げられる。また、就労移行支援事業に関して、目標の定員数を達成することが出来ず、来年度の課題として挙げられる。 (イ) 企業との良好な関係の維持に加え、中央浩生館や地域他施設との協力、教育委員会からの学校清掃業務の請負などに引き続き積極的に取り組み、ご利用者の平均工賃は、月額 25,000 円以上の水準を維持できており、ご利用者のモチベーションの向上に寄与した。 2. ご利用者が健康で豊かな生活が送れるように、ご利用者主体の施設運営を行う。 (ア) 前年度に引き続き、欠席の続くご利用者には、一人ひとりと連絡を絶やさず、生活状況や悩みなどを聞き、関係機関とも協力しながら、共に解決に努めることにより、平均利用者数 28.5 人と前年度に比べ、利用率を上げることができた。 (イ) 行事については、新型コロナの影響が続いたため、外部行事は制約を受けたが、施設間のサッカー大会等にはできる限り参加した。また、内部行事は概ね前年度並みに実施した。 3. 地域に根ざし、社会に開かれた施設として、積極的に地域福祉の推進に取り組み、地域社会に貢献する。 コロナ禍が継続する中で制約は続いたが、これまでに作り上げてきた地域交流を深めるために関係機関交流会を 3 ヶ月に 1 度実施し、地域清掃やイベントにも可能な限り参加し連携を深めることに努めた。また、引き続き寿地区の事業所連絡会の運営に参加し、ボッチャ、モルック、ウォーキングサッカー、YSCC コラボ講座等活動に参加した。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R4 年度		R5 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
インカル就労移行支援(定員 6 人)	5 人	2.1 人	5 人	1.0 人
インカル就労継続支援(定員 34 人)	30 人	26.9 人	31 人	28.5 人

グループホーム すてら縁

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. 個人の尊厳を大切にし、ご利用者一人ひとりの意思に寄り添った支援の提供 関係機関と協力しながら、ご利用者自身の希望を尊重し、それぞれの生活状況に合わせた支援を世話人が中心となって行い、ご利用者の生活の安定を図った。 2. 単身地域生活への移行を目指す支援 アパート転居の希望の実現のため、関係機関を含めたカンファレンスの実施等により1名が転居を果たした。現在も1名が転居に向けて準備を進めている。 3. 人材育成 法人内各グループホーム世話人が集まり定期的に会議を行い、課題や有効な取り組みなどを共有した。また、外部研修への参加の他、グループ内の障害福祉サービス 3 事業所(インカル・すてら縁・うるおい南)で合同の事例検討会を定期的に行い、職員の資質向上に努めた。 4. 近隣地域との連携体制の強化 自治会の活動に可能な限り参加し、地域住民との交流を継続した。日々の生活の中で近隣住民への挨拶を積極的に行うことをご利用者へ継続的に働きかけており、スタッフにも清掃等でホームの外にいる際には、挨拶を必ず行うことを徹底した。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R4 年度		R5 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
すてら縁(定員 10 人)	10.0 人	10.0 人	10.0 人	10.0 人

うるおい南

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. 個人の尊厳を大切にし、ご利用者一人ひとりの意思に寄り添った支援を提供する （ア）ご利用本人だけでなくご家族とも、日常的に面談や連絡をこまめに行い、ご利用者の生活全体のサポートも行った。その結果、参加率は、平均 94.4%（平均利用実績 42.5 人／登録者数 48 人）と高い水準となった。 （イ）幅広いご利用者の受け入れに対応するため、関係機関や特別支援学校との関係を強化し、高等部卒業予定者にも十分な説明を行い、利用希望に繋げた。 2. 安定した活動の確保とご利用者の適性に応じた作業提供により、無理のない環境下で工賃の向上を目指す （ア）ご利用者の安心感を維持するため、民営化以前の企業との関係を大切にしながらも、新たな企業や公共機関との関係づくりを行い、請負先を増やした。その結果、ご利用者に提供する作業内容が多くなり、ご利用者の特性に応じた作業提供を行うことができた。 （イ）企業との単価交渉も積極的に行うことにより、単価の改善も図った結果、ご利用者の作業工賃も平均 35,000 円超を達成し、ご利用者のモチベーションの向上に寄与した。 3. ご利用者の生活の質の向上のための、余暇活動を充実する 単発的ながらコロナ陽性のご利用者の発生もあり、感染防止対策を取りながら余暇活動を実施したが、その結果として制約も多く、余暇活動については十分実施できなかった。

2.稼働実績

事業名	稼働数（1 日平均）			
	R4 年度		R5 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
うるおい南（定員 45 人）	40.0 人	38.5 人	48.0 人	42.5 人

横浜市大岡地域ケアプラザ

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. 社会福祉事業 （ア）通所介護事業 令和 4 年度は利用者数が減少した。サービス内容を見直し、魅力あるプログラムを導入することで利用者増を図る。 ① 理学療法士との業務委託契約を締結し、利用者ニーズに合った専門的な機能訓練を提供した。この取り組みにより、生活機能向上連携加算 97,600 単位（105 万円相当）を新たに算定することができた。 ② 新型コロナウィルス感染症の 5 類移行を機に、外部講師による絵手紙教室やハーモニカ演奏会などのボランティア活動を再開した。また、見学希望者への送迎対応を行い、8 名の新規利用者獲得に繋がった。結果、延べ利用者数は前年比 287 名増加し、介護保険事業収益は前年同期比で増収（440 万円）となった。 （イ）地域活動交流事業 オンラインでの開催、対面形式での開催を状況に応じて組み合わせながら自主事業、サロン活動を展開していく。 ① 高齢者、妊婦、障害児等、多様な対象に向けて、年間計画に沿って自主事業を実施した。自主事業「マタニティヨガ」は、オンライン・ハイブリッド方式にて開催し、参加方法を自由に選択できる柔軟な運営が行えた。 ② 3 館合同事業として、フードドライブ、Xmas 企画、足の健康フェスタを実施したほか、横浜国大特別支援学校の生徒を 3 館の施設見学・職業体験につなげた。 ③ 高齢者の月曜サロンでは季節感のあるプログラムや生徒との交流を取り入れた。また、地区社協との共催でボッチャを通じた地域と障害者施設との交流会を実施した。 ④ 自主事業やデイサービスへのボランティアの受け入れを再開した。 2. 公益事業 （ア）居宅介護支援事業 利用者数の維持に努め、特定事業所加算を継続して取得していく。 ① 要介護 1、2 利用者数の減少（前年比-150 件）、要支援利用者の増加（前年比+180 件）により介護保険事業収益が前年同期比で減収（-160 万円）となった。病院や包括支援センターとの連携を更に強化し、要介護利用者の新規受入数増加を目指していく。

（イ）地域包括支援センター

区地域福祉保健計画に沿い、認知症予防、介護予防、健康づくりを推進する。

① チームオレンジ事業のモデル実施に参加し、キャラバンメイトをはじめとする地域の方向けに、ステップアップ研修を実施し、認知症の理解から一歩進んだ「共生」の視点を共有することができた。

② 介護予防事業を本大岡、井土ケ谷両地区で、年間計画に沿って実施した。休会していた元気づくりステーションを地域住民主体のサロンとして再稼働した。

③ 地域ケア会議や月 4 回の出張相談、ケアマネサロンの場等を活用し、多様な関係機関等と連携して、消費者被害の防止や障害理解、成年後見制度や終活についての普及啓発を行った。

（ウ）生活支援体制整備事業

個々に活動している地域の自主事業、高齢者サロン等を支援するため、サロン連絡会を定期的に開催し、相互の情報交換の場、ネットワーク作りの場として地域におけるサロン活動の活性化につなげていく。

① 昨年度立ち上げたサロン連絡会を、今年度は包括が実施するケアマネサロンにつなげ、ケアマネジャーにインフォーマルサービスとしてのサロン活動等、介護予防につながる様々な地域活動の情報を伝えるとともに、サロンの新しい参加者を増やし、担い手のモチベーションのアップにつなげた。

② 横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業（サービス B）による介護予防・生活支援活動の時間をコロナ禍前に戻して実施した。

③ 高齢者等定期訪問事業実施者等と連携し、生活レベルアップ講座を開催し、地域住民の健康意識向上を図った。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1 日平均)			
	R4 年度		R5 年度	
	目標値	実績	目標値	実績
通所介護(定員 30 人)	23.5 人	18.8 人	23.5 人	19.6 人
居宅(年間のべ)	1,320 件	1,144 件	1,320 件	996 件

横浜市簑沢地域ケアプラザ

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. 社会福祉事業 （ア）通所介護 新たに個別機能訓練加算Ⅱ、科学的介護推進体制加算を取得し、ご利用者が希望する生活を継続できるように支援する。 介護ソフトを利用して加算に係る事務業務効率を上げる。また、研修受講等によりスキルアップを図り、ご利用者に選択していただける事業所を目指す。 ① 全利用者を対象に個別機能訓練加算Ⅱ及び科学的介護推進体制加算を算定。ソフトの導入も行い、業務の効率化が図られた。 ② ご利用者の希望として在宅生活の継続や、単独での外出の希望が多く、それに合わせたプログラムの作成、実施を行った。 （イ）地域交流 地域福祉保健計画の推進にあたり、自治会町内会や地域の支援者、学校や子ども達、商店街・タクシー会社等とともに交流の輪を繋ぎ、地域活動を支援する。 ① コロナ禍で開催できなかった、飲食を伴うイベントを再開した。 ② みのさわデーを開催し、高齢者向けの講座や、子どもたちの発表の場を提供することで世代間交流を図った。 ③ 地区社協との共催で、小学校の長期休暇時期の子供たちの見守りを兼ねて、地域の高齢者と子供の交流を深めるイベントを実施した。 2. 公益事業 （ア）居宅介護 ご利用者やご家族のニーズに寄り添いながら支援し、事業所内外の関係者との良好な関係を築き新規相談に対応する。 ① 年に1回のアンケート結果により、全体の75%から「気軽に相談できる関係」という高い評価をいただいた。また、新規利用者からは「すぐに対応してもらえる」という評価をいただいた。 （イ）地域包括支援/生活支援体制整備 引きこもりがちな独居の男性高齢者や認知症(疑い)の方と交流機会が持てるように、民生委員や老人会等の地域支援者とともに検討し支援する。 ① 職種、関係機関と連携を取りながら、引きこもりがちな独居男性高齢者や認知症（疑い）のある方の情報を収集した。 ② 集いの場に参加できるよう、興味が持てるイベントを提供した結果、参加者を増やすことができた。

③　5職種会議を継続的に実施し、各職種が把握しているケースを全体で把握するよう努めた。

④　個別ケース地域会議では、認知症独居高齢者のケースをもとに見守りに関する協力体制の構築を共有した。

⑤　包括レベル地域ケア会議では、終活やコロナ禍のような、有事の際の関係機関の連携の必要性について検討を行った。

（ウ）介護予防支援

要支援者が適切に介護予防サービスを利用できるように事業者等と連絡調整し、できるだけ介護状態にならないように支援する。

①　介護予防サービス計画の作成をすることで、要支援者が適切な介護予防サービスが受けられるよう支援を行った。

②　要介護状況にならないよう介護予防事業の開催を実施すると同時に、委託している居宅介護事業所へのサービスB事業の普及啓発を行った。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R4年度		R5年度	
	目標値	実績	目標値	実績
通所介護(定員40人)	30.5人	29.6人	31.0人	32.5人
居宅(年間のべ)	700件	640件	700件	630件

横浜市保土ケ谷区精神障害者生活支援センター

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. 相談支援機能の整理と強化 （ア）支援センターの相談支援機能について、各事業の主な対象像や役割、連動の在り方を整理し共通理解が持てた。それにより、「基本相談」を柱として必要な方へ、より柔軟に支援提供する土台を築けた。 （イ）区の事業であった、「精神障害者アウトリーチ支援事業」について、今後支援センターを中心に自立支援協議会の機能として位置付け、新たなより幅広い仕組みとして市へ提案し、令和6年度より他区でも活用できる市の事業となった。 2. 地域の支援体制整備の促進 （ア）区自立支援協議会等の各会議に中核的に参画する中で、より地域共通の課題を吸い上げ、協議しながら、3機関定例会議とも連動した形で制度の整備計画ともリンクできる年間の運営サイクルを構築できた。 （イ）主担当する精神net（部会）の取り組みを活性化させ、他領域（ケアプラザや社協など）との関係を深めることができ、来年度に向けて区内ケアプラザとの協働活動の具体的計画を協議できた。 3. 精神保健福祉に関する普及啓発 （ア）区社協を活用する諸団体、地区民児協、児童福祉を行うNPO法人などと関係性を深め、支援センターを見学いただくことで、業務内容の周知や精神保健福祉の普及啓発ができた。 （イ）年1回のケアプラザとの共催の祭りを開催。区内の関連事業所や医療機関とも協働してフロアを盛り上げた中、子供から高齢者まで幅広い方々が300名以上来館いただき、メンタルヘルスに関する普及啓発を図ることができた。 4. 障がい当事者との協働 （ア）祭りの機会を利用し、当事者の体験談動画を公開。また、絵画などの当事者手作り作品を展示するなど、活躍できる場を共に作れた。 （イ）ピアスタッフを雇用し、市ピアスタッフ推進モデル事業へ協力しながら「ピアサポーター」との協働支援の在り方について学びや実践を深められた。 5. 専門職としての資質向上を図る （ア）資質向上を図るため、係会議等で内部研修を適宜行うことに加えて、参考となる外部の研修にも積極的に参加し伝達・共有できた。 （イ）定型化した支援検討等を日々の中で継続することに加え、主任を中心に各事業、また、各職員との振り返りの機会を恒常化させるなど、それぞれが見立てと見通しを持ち、説明できる力などの技術向上・スーパーバイズの機会を形作れた。

2.稼働実績（令和 6 年 3 月 31 日現在）

事業名		契約数			
		R4 年度		R5 年度	
		目標値	実績	目標値	実績
地域移行・地域定着		15 人	21 人	15 人	18 人
計画相談	契約件数	100 人	103 人	90 人	82 人
	毎月のモニタリング件数	40 件	32 件	40 件	34 件
自立生活援助事業		5 人	1 人	5 人	1 人

事業名	R5 年度			
	年間契約者(のべ)	新規契約者	年度末契約中	卒業者
自立生活アシスタント	20 人	8 人	12 人	8 人

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1. 地域共生社会の実現に向けて、市民が精神障害に関する理解を深める機会の提供 （ア）区内地域ケアプラザと連携して市民向け精神障害理解講座を 4 回実施。民生委員、地域住民の方々が理解を深める機会を提供できた。 （イ）コロナ前までは、町内会との協働で夏祭りを実施していたが、令和５年度より関係機関も巻き込む形で「ハーモニーとよおか祭」としてブラッシュアップをした。ご利用者、ご家族、関係機関、学生ボランティアの力も借りて全館にて催し物を実施。約 600 名の方が来所し、より良い普及期発活動を実施できた。 2. ご利用者が交流を通して、互恵関係を感じられる機会の提供 （ア）小学校特別支援学級との交流授業を実施。以下の取り組みを行った。 ① センター見学会、ご利用者と生徒さんでゲーム大会 ② 小学校の菜園にて育った野菜をご利用者が収穫し、区内就労 B に配布した。 ③ 季節行事を共に実施し、地域住民とご利用者が交流を深めた。 3. 横浜市ピアスタッフモデル事業への協力 （ア）センターへのピアスタッフ配置の効果検証を行うため、ピア候補生１名をパート採用した。 （イ）当事者目線の提案を多数あげており、利用者満足度に繋がるセンター改善を行うことができ、早くも効果を発揮している。 4. 計画相談支援事業の充実を図ると共にセンターの本来業務とのバランスを調整 （ア）専門相談機関として、新旧の民間事業所サポートを実施。 ① 定例のセンターOJT ミーティングに民間事業所も自由に参加できるようにし、連携強化を図ることができた。 ② 症状の安定したご利用者を積極的に民間事業所に引継ぎ、対応が困難なご利用者をセンターで実施することにより連携強化に努めた。 ③ 相談支援専門員欠員に伴い業務バランスを見直し、事業担当者がバーンアウトしないよう新規受入を一時中断するなど工夫しながら運営を行った。 5. 職員の課題解決能力の向上、人材育成 （ア）各事業リーダーによる OJT 会議を推進。チームごとに育成を意識した取り組みを実施。 ① 新卒は、２年目から３年目職員が身近な相談者となるよう配置した。 ② 月１回以上、チームミーティングを行い自己主張しやすい場を設けた。その結果、チーム力が向上し、全体のチームワークも強化された。 （イ）研修に積極的に参加できるようそれぞれ情報共有を行う。

オンライン研修も増え、多忙な中でも参加しやすい状況になったこともあり全国レベルの研修等に複数名出席した。また、受講者が資料を要約し伝達講習、情報共有を行うことにより、個々人のプレゼン能力の向上を試みた。結果として、環境の好影響もあるが、新人職員が自らの考えを発信できることが増えスキルアップ向上に繋がった。

2.稼働実績（令和 6 年 3 月 31 日現在）

事業名		契約数			
		R4 年度		R5 年度	
		目標値	実績	目標値	実績
地域移行・地域定着		15 人	15 人	15 人	17 人
計画相談	契約件数	104 人	125 人	100 人	98 人
	毎月のモニタリング件数	50 件	59 件	50 件	40 件
自立生活援助事業		5 人	2 人	5 人	0 人

事業名	R5 年度			
	年間契約者(のべ)	新規契約者	年度末契約中	卒業者
自立生活アシスタント	28 人	9 人	24 人	5 人

CaféTurtle

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1.　就労内容を充実させ、工賃UPを目指しご利用者の満足度向上を図る （ア）企業と契約し、作業の受注を開始した。普段と違う内容の作業であるため、ご利用者も気分を変えて取り組むことができた。 （イ）6月より、神奈川区作業所連絡会加入の事業所で毎月実施している日産横浜工場販売への参加を開始。また、7月より1社、2月より5社の区内企業への置き菓子販売を開始。定期的に納品できる場所ができたことにより、売上及びご利用者の作業量の増加に繋がった。 2.　関係機関との連携を強化し、収支改善を図る （ア）引き続き利用者確保に取り組んだ。他事業所及び特別支援学校等からの問合せに対応し、積極的に見学や体験通所、実習を受け入れた。その結果、7名の新規契約に繋がった。一日当たりの通所人数は2.2人の増加となった。 3.　地域に根付いた事業所運営、普及啓発 （ア）地域のイベント（10月29日、オオカミフェスタ）へ今年も参加し、カフェの日曜営業を実施した。多くのお客様のご来店があり、事業所を知っていただく機会となった。その他、区役所での自主製品販売、区社協や区自立協、他事業所からの焼き菓子発注等、声をかけていただいた案件に可能な限り対応することにより、顔の見える関係作りが進んだ。 （イ）近隣小学校の児童の総合学習における事業所見学を受け入れた。事業所の概要や障害についての説明、地域に対しての思いをお伝えした。それ以降、児童が友達同士で気軽に来店してくれるようになるという繋がりも生まれた。 （ウ）区内の療育おやこネットワークの勉強会に講師として出席した。高校進学の進路の選択肢の一つである就労継続支援B型についてのイメージを持って頂けるように、その一例として当事業所の概要をお話しした。活発な意見交換もあり、普及啓発という部分で少なからず役割を果たすことができた。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)			
	R4年度		R5年度	
	目標値	実績	目標値	実績
就労継続支援B型(定員20人)	14人	4.2人	15人	6.4人

横浜市多機能型拠点こまち

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1.　社会福祉事業(相談・短期入所事業・通所系・居宅・受託事業等) (ア)高度な医療的ケアのある障害児者が、安心・安全に地域生活が過ごせるように、様々なサービスを多機能型拠点の機能を活かして提供する。 ①　相談支援事業では、横浜市特別支援学校の教員研修で「多機能型拠点の機能」、町内会と協議会で「多機能型拠点と重症心身障害児者の理解」について講義した。 ②　横浜ラポールの協力で、施設内で経験したことのないプロによるミュージカル公演を鑑賞し、ご利用者・ご家族と職員が感動を共有することができた。(共通) ③　ボランティアによるセラピー犬との触れ合い・交流の場を定期的に実施できたことで、ご利用者の新たな経験と癒しをもたらすことができた。(共通) ④　通所・在宅事業を含めて、複数事業を利用する重症度の高いご利用者が亡くなられ、更に長期入院・体調不良児・者も多く、経営は厳しかった。(共通) ⑤　管理栄養士による栄養マネジメントでは、通所ご利用者全員の栄養計画を立て、ご家族にも協力を得ることで栄養状態の改善に取り組めた。 ⑥　生活介護では、ボッチャの活動を通して他施設との交流の場を広げた。また、腹臥位を積極的に取り入れ、効果的な排痰ケア行うことで、誤嚥性肺炎予防に繋がった。 ⑦　医療型特定短期入所では、NICU 退院後の乳幼児とその家族への支援に重点を置き、6 名を受け入れることができた。また、訪問級在籍児童や未就学児等 7 名が、個別ニーズに合わせた活動として、ショッピングセンターやレジャー施設に初めて家族以外と外出することができた。 ⑧　放課後等デイサービスでは、保護者参加型の活動を初めて 3 回実施した。また、保護者会では日々の活動をスライドショーで紹介し、信頼関係を深めることができた。 ⑨　保育所等でこどもたちが安心して集団生活が送れるよう、保育所等訪問支援事業を立ち上げた。セラピストが訪問し、安楽な姿勢が保てるようにポジショニング等を支援することができた。(特別支援学校 2 か所・保育園 1 か所) ⑩　通学支援では、親に替わり医療的ケア児の送迎を 5 名に拡大することができた。横浜市立特別支援学校(左近山・若葉台・中村)・県立特別支援学校

（三ツ境）

2.　公益事業（診療所・訪問看護・受託事業等）

（ア）多機能型拠点の機能を活かした診療と経営の安定化を図る。

① 診療所では、総来院患者数は 10,274 名で、前年比 887 名の増となった。インフルエンザワクチン接種は 672 名で、前年比 92 名増となった。

② 施設内診療では、大学病院等の医師の協力により、救急搬送や入退院時の情報共有がスムーズにでき、緊急時の対応や健康管理に活かせた。また、成人利用者の健康診断を 9 名実施し、安心安全な通所をサポートする為の指標となった。

③ 管理栄養士が一般外来患者向けに栄養指導のパンフレットを作成した結果、外来栄養指導（保険診療）を 3 名実施できた。また、乳児健診等の機会に貧血予防に対する栄養指導を 10 数名行うことができた。

④ 日本栄養士会の災害支援チームとして、管理栄養士が能登半島地震災害派遣に参加し、能登町避難所で被災者の栄養管理・糖尿病等の食事相談を 3 日間行った。

⑤ 訪問看護では、ご家族との情報交換を密に行うことで、予定時間外での訪問でも柔軟に対応できるよう体制を整え、ご家族との信頼関係を深めることができた。

⑥ 大学病院から依頼を受け、医療的ケアのある重症心身障害児者の退院後の生活を学ぶための看護師研修を 2 回実施した。

⑦ 訪問リハビリでは、家庭で使用する椅子や装具の修理に加え、細かな調整や姿勢等の改善を行った結果、快適な在宅生活に結び付けることができた。

⑧ 多機能型拠点の理学療法士・管理栄養士など専門職を神奈川県・横浜市医師会・横浜市教育委員会等が主催している研修講師として 9 回派遣できた。「医療的ケアコーディネーター研修」や「給食施設の災害時の備えと食事対応について」のテーマ等幅広い分野で地域貢献できた。

2.稼働実績

事業名	稼働数（1 日平均）				
	R4 年度		R5 年度		備考
	目標値	稼働数	目標値	稼働数	
診療所	45 人	39 人	45 人	44 人	施設内診療含む
訪問看護（訪問リハ含む）	10 人	10 人	12 人	10 人	通学支援含む
一般相談	100 人	111 人	120 人	118 人	年間実人数
計画相談・障害児相談	600 件	424 件	720 件	868 件	年間モニ件数

福祉型短期入所(定員５人)	４人	４人	４人	４人	開所日の平均
医療型特定短期・日中一時	13人	10人	13人	10人	
居宅介護・移動・重度訪問	20人	15人	20人	14人	
放課後等デイサービス	５人	５人	５人	4.4人	
生活介護(定員20人)	17人	16人	18人	15人	
福祉有償移動サービス	４人	３人	５人	５人	通学支援含む
学校通学支援(看護師添乗)		１人	２人	５人	医療的ケア児の送迎

左近山特別支援学校内放課後等デイサービスたんぽぽ

1.事業報告

重点目標に対しての達成状況
1.　放課後等デイサービス （ア）学校併設の放課後の居場所として、安心・安全に楽しく過ごすことができるように、学校との連携や災害時を含めた緊急時の協力体制を確保する。また、地域の社会資源を活用し、地域住民とのつながりを作る。 ①　学校の避難訓練に参加し、全体的な流れや動きなどを確認することができた。 ②　多職種で連携し、学校の校庭を借りての凧揚げ等、様々な活動を提供することができた。畑活動では色々な野菜を育て子供たちに持ち帰ってもらった。 ③　地域マップを作成し、近所のスーパーや郵便局に、社会体験として出向いた。その中で、自分たちで作ったハガキにメッセージを書き、郵便局で投函してきた。 ④　夏休みにはこまち夏祭りを、春休みには横浜ラポールでボーリング大会を開催。外出先で食事をしたり、他ご利用者や横浜ラポールの施設関係者との交流等を楽しむことができた。 ⑤　季節イベントでは、アラジンマジックランプシアターやアナ雪を活動室で再現。ご家族や他事業所も参加してもらい、とても楽しかったと高評価をいただいた。準備段階から手伝ってくださったご家族とは、一緒に活動するという職員にとっては貴重な体験となり、信頼関係も育むことができた。 2.　学校看護師派遣及び通学支援事業 （ア）児童が安心して楽しく授業に参加できるよう、登下校時から学校内で常時看護師が付き添い、健康面の充実・安全を確保する。 ①　学校看護師派遣・通学支援事業においては、様々な状況にも対応できるよう、複数名での体制を整えた。また、学校との連携により、質の高いケアの確保と、安心・安全な学校生活が送れるよう支援することができた。

2.稼働実績

事業名	稼働数(1日平均)				
	R4年度		R5年度		備考
	目標値	稼働数	目標値	稼働数	
左近山放課後デイサービス	5人	4.7人	5人	4.2人	
学校看護師派遣(1日付き添い)		1人	1人	1人	人工呼吸器利用者
学校通学支援（看護師添乗）		1人	2人	2人	人工呼吸器利用者